

| 令和8年度 平塚中等教育学校 不祥事ゼロプログラム | | | |
|---------------------------|-------------------------|---|----|
| 取組課題 | 目標(達成すべき内容) | 行 動 計 画 | 実施 |
| 1 | 交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止 | <p>① 飲酒運転(自転車も含む)が非常に危険な行為であり重大な罪になるという認識を、チェックテスト等の資料を用いた研修により徹底させる。</p> <p>② 研修で「追突」や「出会い頭」「右左折」などの多くある事故事例を紹介し、重大事故につながりかねないリスクに対する意識を高める。</p> | |
| 2 | 財務事務等の適正執行 | <p>① 最新の会計基準や様式を守ると共に、担当者にはマニュアル等で注意すべき点を明確に示し、ダブルチェックを推奨し、事故防止に努める。</p> <p>② 適正かつ公正に業者が選定され、予算執行されるよう、業者選定会議を確実に開催する。</p> <p>③ 私費会計基準に基づいた伝票・出納簿等の書式・手順の整理、通帳等の管理を徹底すると共に、職員間の連携を密に行い、事故防止を図る。</p> | |
| 3 | 体罰・不適切指導の防止 | <p>① 最新の資料を参考に、職員全員対象に人権に配慮した最適な支援を行うための研修会を設ける。</p> <p>② 体罰等のアンケートで実情を把握し、生徒の人権に配慮した指導について職員による日常的な相互点検を行う。</p> <p>③ 高い人権意識で情報のアンテナを張り、関連の新聞記事や関連図書を共有し、教育活動のすべてが人権に配慮したものとなるよう留意する。</p> | |
| 4 | 職場のハラスメントの防止 | <p>① 最新の情報を盛り込んだ研修等を通じて、職員全体のSOGハラ・セクハラ・パワハラ・マタハラ等の発生に対する日常的な点検を促す。</p> <p>② 様子が気になる職員や不安を抱える職員の声に耳を傾け、状況により専門家の相談を利用するなど、個々に応じた適切な職員管理を行う。</p> <p>③ 一人ひとりが人権についての意識を高め、あいさつを交わし、悩みや気になることを遠慮なく伝え合える環境づくりに努める。</p> | |
| 5 | 生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止 | <p>① 日頃から人権尊重の意識を高め、生徒への人権に配慮した教育の実践に向けて教職員の意識付けを行う。</p> <p>② 日常的に携帯電話、電子メール等の不適切な使用がないよう、事例を参考に、生徒とかかわる職員全員に報告・周知徹底する。</p> <p>③ セクハラ・パワハラ等のアンケートをもとに、実態把握に努め、事実確認と生徒への啓発も含めた適切な対応を行う。</p> <p>④ 様々な状況において環境が密室化することがないよう、職員の配慮を求め、日常的な意識啓発を行う。</p> | |
| 6 | 個人情報等管理・情報セキュリティ対策 | <p>① 専門家の知見を得ながら最新の個人情報の保護・管理について情報共有し、流出の未然防止につながるルールの改善を恒常的に行う。</p> <p>② 個人情報管理規定の運用について所属職員全員を対象とした職場研修を実施する。</p> <p>③ 会議や打ち合わせ等における個人情報の収集と使用について、所定の手続き等に従い、くまなく適正に行われるように指導する。</p> <p>④ 携帯電話、電子メールの不適切な使用がないよう研修会を実施し、啓発をする。</p> <p>⑤ USBメモリー等記録媒体の不適切な使用がないよう管理する。</p> <p>⑥ 教職員個人の電子データ等の保守意識を高め、やむを得ず個人情報等を校外に持ち出す場合のルールと心構えの徹底を図る。</p> | |
| 7 | 業務執行体制の確保 | <p>① 行政文書の取り扱いに注意し、作成・保管・管理の徹底を図る。</p> <p>② グループリーダーと学年代表が中心となって、業務や課題を一人で抱え込まないような業務体制を整えるほか、職員の同僚性を意識付ける。</p> <p>③ 事故防止をテーマに研修を実施するとともに、リスクマネジメントの視点から、各業務や点検作業の見直しを行う。</p> | |
| 8 | 法令順守意識の向上 | <p>① 規律違反の事例紹介や、公務外わいせつ事案を含むコンプライアンスの研修会等を通じて、規範を遵守することの大切さを周知徹底する。</p> <p>② 常に、公私の別を明らかにし、県民の疑惑や不信を招く行為をしないよう周知徹底する。</p> <p>③ 地域社会との協働の機会を増やし、高い倫理感が必要な公務員としての意識を涵養する。</p> | |
| 9 | 入学者選抜、成績処理及び進路関係に係る事故防止 | <p>① 変更点の確認、作業の可視化、リスクの洗い出しなどを行い、ICTを活用しながら入学者決定検査における事故防止に努める。</p> <p>② 定期テスト、成績処理等の事故事例をふまえ、マニュアルに沿った手順を踏むとともに、職員同士確認し合いながら事故防止を図る。</p> <p>③ 進路関係書類や情報に関し、職員の共通理解のもと、生徒への徹底した確認と適切な情報提供と入念な点検作業を行い、確実性を高める。</p> | |

○=達成できた △=一部達成できた ×=達成できていない

○ 令和7年度不祥事防止ゼロプログラムの達成状況と令和8年度に取り組むべき課題について(学校長)

- ・不祥事防止ゼロプログラムの計画に従い、点検表を用いて定期的に事故防止会議と不祥事防止研修を実施することができた。
- ・「不祥事防止職員点検啓発資料」としてチェックシートを各教員に提出してもらい、効果的な意識啓発をおこなっている。8年度も個人対応型研修を継続し、時期をふまえた効果的な事故防止を行いたい。
- ・地域社会を支える責任と役割を自覚し、次年度も事故・不祥事は絶対起こさないという決意のもとに、学校がチーム一丸となって事故防止に向けた取組を行う。